

協同の「絆」で東日本大震災被災地支援活動を展開

◆ J Aグループ愛媛支援隊を被災地に派遣

J Aグループ愛媛は2011年7月4日から、県内J Aや連合会職員で構成した「東日本大震災J Aグループ愛媛支援隊」の被災地派遣に取り組みました。支援隊は2班に分けて岩手県陸前高田市に総勢15名派遣しました。現地では3日間、J Aおおふなと管内の組合員農家の水田等における復旧作業に取り組み、被災地農業の早期復旧に向けて一丸となって取り組みました。



支援隊第1班結団式（松山空港にて）



支援隊第2班結団式（松山空港にて）

【被災地・支援活動の様子】



津波に流されほとんどの住宅が失われました



3階まで津波に襲われたJ Aおおふなと高田支店



建物の中は足の踏み場もありません



水路掃除に取り組む支援隊メンバー（泥かき・瓦礫の撤去と分別作業をしました）

◆ J Aにしうわ職員 みかん農家の手紙を被災地に届ける

J Aグループ愛媛支援隊に参加したJ Aにしうわ真穴事業所の河野晃範さんは、同J A管内の農家の梅田晴久さんから預かった手紙を、被災地で食堂を運営する吉田宏さんに手渡しました。

梅田さんと吉田さんは、以前岩手県で開催された青年農業後継者大会で出会い、交流を続けていました。吉田さんは、食堂「仙華園」の店長でもあり、リンゴを栽培する農家でもあります。甚大な被害を受けた陸前高田市で、本格的な営業を再開することをニュースで知った梅田さんが手紙を書き、支援隊員に預けました。

